

## 「鳥の巣」建設からみる農民工の問題点

秋山 尚子

### 1. はじめに

2008年夏北京に、世界各国の有名スポーツ選手が集まった。オリンピックという4年に1度の祭典が北京の「国家体育場」で行われたからである。オリンピックの開催前から会場となるスタジアムは、「鳥の巣」という愛称がつけられ、注目されていた。しかし、「鳥の巣」の建設に欠かすことができなかった「農民工」の存在を知る人は、どの程度いるのだろうか。

本稿では、オリンピックの成功を陰で支えた農民工の就労実態を例に出し、農民工の問題点を述べる。就労実態については、「鳥の巣」建設の事例をあげる。

### 2. 「鳥の巣」

「鳥の巣」の正式名称は、「国家体育場」という。このスタジアムを設計したのはジャック・ヘルツォーク、ピエール・ド・ムーロンというスイスの建築家である。この2人の建築家は、日本の「プラダプティック青山店」の設計も手掛けていて、有名な建築家である。

「鳥の巣」着工から竣工まで約4年半かかり、初公開されたのは、2008年4月18日である。収容人数は9万1000人、総工費は約30億人民元(約450億元)と言われている。(Haraguchi and Yamashita 2008)

### 3. 「鳥の巣」建設の真実

あの巨大なオリンピックの会場を建設するには、安価な賃金で働く労働者が大量に必要である。その労働力となったのが、多くの農民工たちで、スタジアム建設には欠かせない労働力であったといえる。

農民工というのは、都市部の下層労働市場で働く、農業戸籍を持つ農民出稼ぎ労働者のことである。(厳 2007)

欠かせない存在であったといっても、働く環境は悪く、高さ70メートル近い会場の最上部では、連日「農民工」と呼ばれる出稼ぎ労働者が強い日差しと風にさらされながら作業にあたっていた。ここで働く農民工は約4000人で、午前6時～午後7時半まで休みなしで働いて月収は約900元(約1万4400円)である。プレハブ3階建ての宿舎は強烈な悪臭が漂う共同トイレだけで浴槽はない。

「眠気があったら上に登るな。落下したら自己責任だ。」そんな張り紙の警告にかかわらず、農民工2人が転落死したと同僚は訴える。「江蘇省と山東省の出身者。一人は命綱をつけずに作業中、もう一人は通路を歩行中にバランスを失い、落ちた」と。

首脳の視察が報道されることはあっても、転落死が報道されることはない。工事を請け負う国家体育場有

限責任会社の広報担当は事故を否定し、北京五輪組織委員会工程・環境部余小萱副部長も「聞いてない」、農民工たちは「上から口止めされた」と明かす。(坂尻 2007)

#### 4. 農民工の問題点

農民工の問題点は、3 節でも述べたように都市戸籍者とは法的にも、行政的にも差別されていて職業選択の機会が平等に与えられていないことである。(小島 2008)

農民工の問題を分けると、4 点あげられる。1 つ目は就業問題、2 つ目は社会保障問題、3 つ目は子供の教育問題、そして4 つ目が人権問題である。

1 つ目の就業問題では、職業差別、低賃金、賃金不払いの3 つがあげられる。農民工は、建設現場・紡績などの工場、商業・サービス業からなる下層労働市場に押しとどめられる場合が多く、農民の給与は低く設定されている。さらに、多くの農民工が働く建設業界では賃金不払いという問題も発生している。

2 つ目の社会保障問題というのは、農民工は滞在先の戸籍を持っていないため、地元の住民と同じように失業、医療、労災、年金などの社会福祉を享受できないことである。

2002 年、ようやく農民工を対象とする総合保障制度(労災補償、医療保障、養老金)が作られたが、うまく機能しているとはいえない。なぜかという、企業は保険料負担を逃れようと農民工のための保険加入を故意にごまかしたり、農民工は少ない給与から保険料を納めるには抵抗があり、積極的に加入する意思をもっていないことが多い。

3 つ目の子供の教育問題では 親と離れて農村で暮らす子供、親に同行し都市に住む子供、それぞれ問題がある。 の問題点は、親と離れて暮らすことが原因で心身共に発育が遅れ、非行に走る子が比較的多いという研究結果が報告されていること、 の問題点は、滞在先の戸籍をもたない子供達は公立学校に入れなかったり、農民工の子供が公立学校に入れられないような高額の「借読費」が設定されている。(厳 2007)

農民工の子供たちは、「戸籍」という制度が原因で、十分に教育を受けることですら大変なのである。

4 つ目の人権問題というのは、農民工の多くの権利が剥奪され、制限されているということである。具体的には、組合加入の制限や、強制送還などによる人的への侵害があげられる。(厳 2007)

以上の4 点が農民工の問題点だといえる。

3 節の例は、農民工の問題点としてあげた、就業問題、社会保障問題、人権問題という3 つが表れているといえるのではないか。

#### 5. おわりに

オリンピックのメインスタジアムとなった「鳥の巣」の建設を例に出して、農民工の問題をまとめたが、このような状況は決して珍しい状況ではないと思う。

最近北京では、新たな建物の建築が盛んにおこなわれている。たとえば、2008 年 2 月にオープンした北

京国際空港新ターミナル、CCTV タワー（央視新楼）、三里屯 Village などがあげられる。（Haraguchi and Yamashita 2008）これらの建築物に対して、規模の大きさやデザインに目がいてしまいがちではあるが、その影には悪条件の下で働く多くの農民工がいることを忘れてはならない。

彼らは生まれた時から「戸籍」という制度に縛られ、共に生きていかなければならないのである。以前と比べれば、戸籍制度は緩和されてきたといえるが、まだ多くの問題は残ったままである。農民工という問題が解決できない限り、中国政府が目指す持続的な経済成長に陰りがでてくるのは間違いない。

#### <参考文献リスト>

- ・坂尻信義（2007）奔流中国 21 「五輪熱気、貧富拡大 底辺に「農民工」2 億人」『asahi.com:朝日新聞社の速報ニュースサイト』（<http://www2.asahi.com>, 2008 年 12 月 5 日）
- ・巖善平（2007）「農民工問題の諸相 - 農民工は国民か」『巖善平ホームページ 桃山学院大学経済学部』（[rio.andrew.ac.jp/~yan-sp/-1k/](http://rio.andrew.ac.jp/~yan-sp/-1k/), 2008 年 11 月 6 日）
- ・Haraguchi, Junko and Megumi Yamashita（2008）「加油 北京超級建築物」『Casa BRUTUS』2008 年 8 月号 pp,164 ~ 171
- ・小島麗逸（2008）「中国経済の高度成長とそれが生み出している構造的矛盾」『東亜』2008 年 10 月号 p,42